

日本経済論B		准教授 中村 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目 会計ファイナンスコースの 専門選択科目 経営・経済コースの専門選 択科目 教職科目	科目ナンバリング	23222204 25320216

1. 授業のねらい・概要

「日本経済論」として論ずべきテーマは多岐にわたるが、今年度は「グローバル化と新自由主義」をテーマとして論じる。

現今の日本経済に対する評価は極めて錯綜している。2012 年 12 月から始まる景気拡大局面が戦後最長期間に達すると見られる一方で、経済成長率そのものは低位に推移しており、何より社会全体で豊かさを共有する感覚が失われて久しい。「実感なき戦後最長の景気拡大」は、2000 年代の「いざなぎ景気」においても同様に生じたことであった。このことは、景気循環メカニズムに生じている何らかの歪みが 2000 年代以降顕在化したことを示している。

それではその「何らかの歪み」とは何か。本講義ではテキストを読み進めるなかでその答えを探っていくこととする。

2. 授業の進め方

テキストを受講者同士で読み進めながら、日本経済について理解していく。とりわけ重要な用語・概念は重点的に解説する。テキストを補完する必要がある点については、別途資料を配布して論じる。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 「経済」とは何か
2. グローバリゼーションとグローバリズム	10. 財政と「公共」
3. 中南米諸国の債務危機	11. つながりの危機
4. IMF コンディショナリティ	12. 「福祉国家」と「土建国家」
5. ワシントン・コンセンサス	13. 財政支出のゆくえ
6. グローバルインバランス	14. 成長神話と「アベノミクス」
7. サブプライム危機	15. 「選別主義」と「普遍主義」
8. グローバリズムの帰結	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

初回授業で配布する進行予定表にもとづいてテキストの次回授業で扱う部分を熟読するとともに、知らない用語について意味を調べ、毎回配布する課題プリントに取り組むこと。必要な時間の目安は 90～120 分ほど。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験終了後、模範解答を掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

日本経済について理解し、他者に対して文章・口頭で説明することができるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

毎回提出する課題およびレスポンスペーパー（50%）、期末試験（50%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

【テキスト】井手英策『経済の時代の終焉』（岩波書店、2015 年）

9. 受講上の留意事項

授業にはテキストを必ず持参すること。

前期の日本経済論 A を併せて受講することが望ましい。